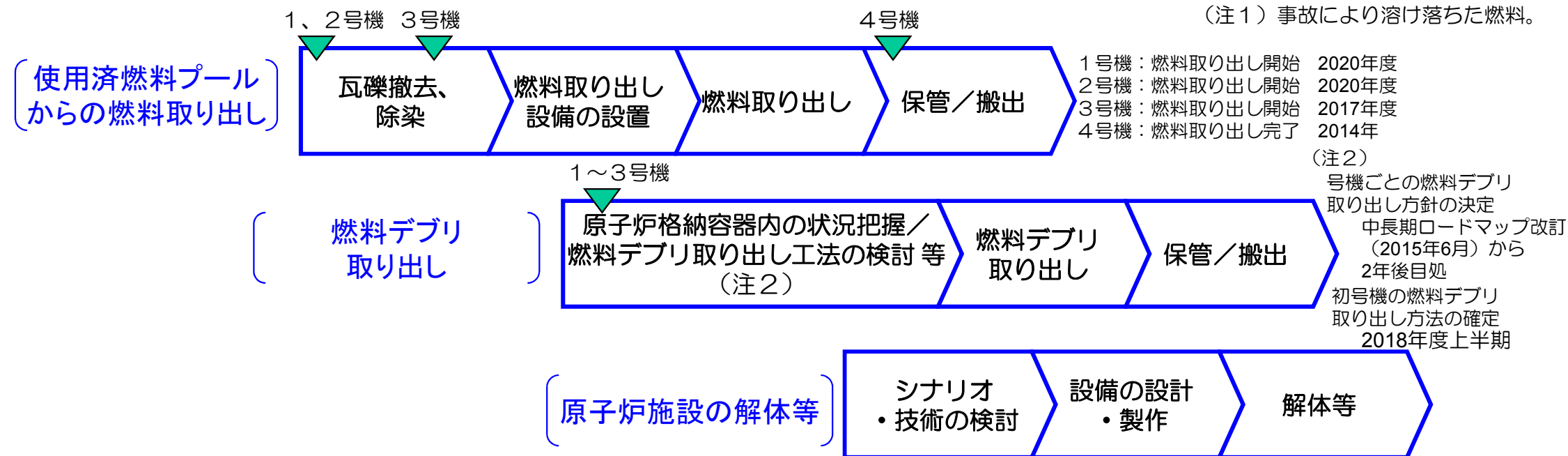


「廃炉」の主な作業項目と作業ステップ

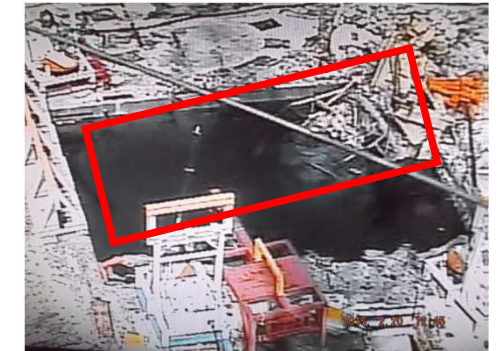
～4号機使用済燃料プールからの燃料取り出しが完了しました。1～3号機の燃料取り出し、燃料デブリ(注1)取り出しの開始に向け順次作業を進めています～



使用済燃料プールからの燃料取り出し

3号機の使用済燃料プールからの燃料取り出しに向け、プール内の大型ガレキ撤去作業を進めています。

3号機使用済燃料プール内の大型ガレキ撤去作業は、2014年8月のガレキ落下を受け中断していましたが、追加の落下対策を実施し、2014年12月より大型ガレキ撤去作業を再開しています。



(7月後半に撤去予定の燃料交換機)

「汚染水対策」の3つの基本方針と主な作業項目

～事故で溶けた燃料を冷やした水と地下水が混ざり、1日約300トンの汚染水が発生しており、下記の3つの基本方針に基づき対策を進めています～

方針1. 汚染源を取り除く

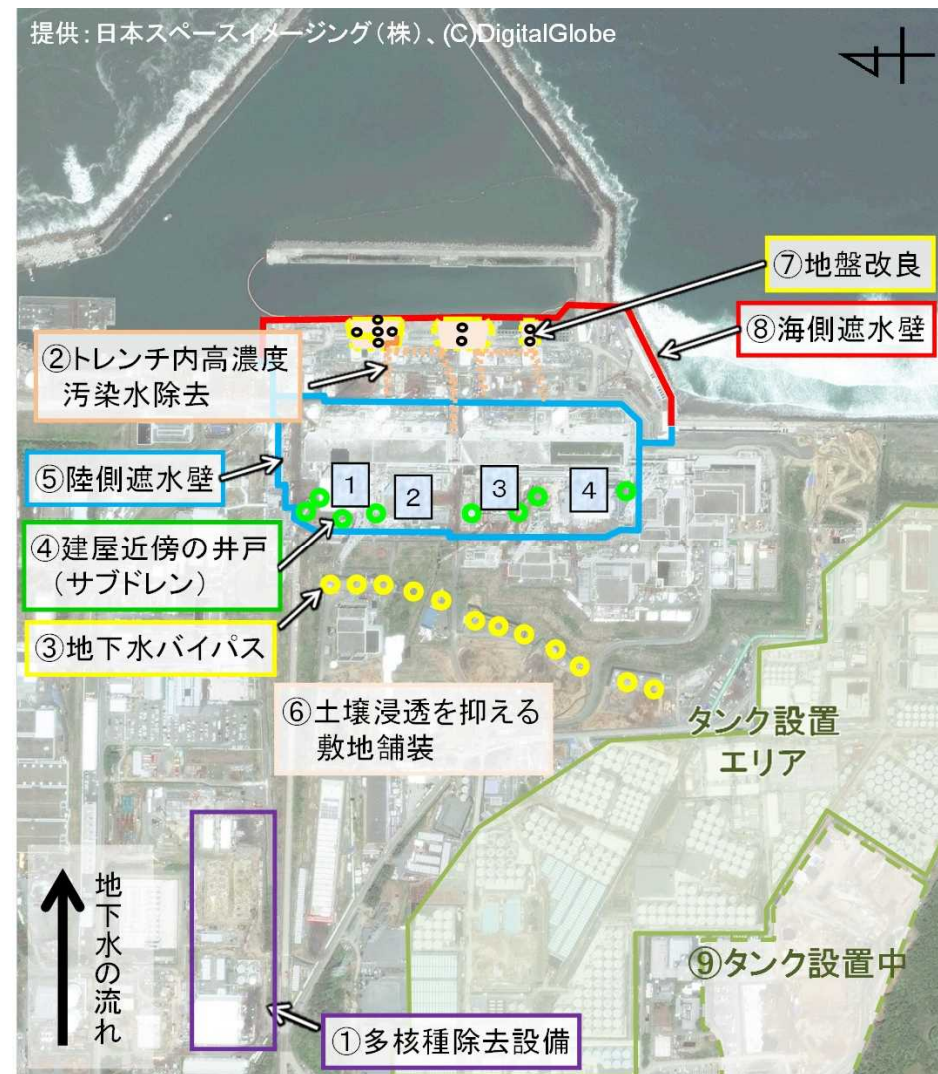
- ①多核種除去設備等による汚染水浄化
- ②トレンチ(注3)内の汚染水除去
(注3) 配管などが入った地下トンネル。

方針2. 汚染源に水を近づけない

- ③地下水バイパスによる地下水汲み上げ
- ④建屋近傍の井戸での地下水汲み上げ
- ⑤凍土方式の陸側遮水壁の設置
- ⑥雨水の土壌浸透を抑える敷地舗装

方針3. 汚染水を漏らさない

- ⑦水ガラスによる地盤改良
- ⑧海側遮水壁の設置
- ⑨タンクの増設 (溶接型へのリプレイス等)



多核種除去設備(ALPS)等

- ・タンク内の汚染水から放射性物質を除去しリスクを低減させます。
- ・多核種除去設備に加え、東京電力による多核種除去設備の増設(2014年9月から処理開始)、国の補助事業としての高性能多核種除去設備の設置(2014年10月から処理開始)により、汚染水(RO濃縮塩水)の処理を2015年5月に完了しました。
- ・多核種除去設備以外で処理したストロンチウム処理水について、多核種除去設備での処理を進めています。



(高性能多核種除去設備)

凍土方式の陸側遮水壁

- ・建屋を陸側遮水壁で囲み、建屋への地下水流入を抑制します。
- ・2013年8月から現場にて試験を実施しており、2014年6月に着工しました。
- ・先行して凍結を開始する山側部分について、凍結管の設置が約99%完了しています。
- ・2015年4月末より試験凍結を開始しました。



(陸側遮水壁 試験凍結箇所例)

海側遮水壁

- ・1～4号機海側に遮水壁を設置し、汚染された地下水の海洋流出を防ぎます。
- ・遮水壁を構成する鋼管矢板の打設は一部を除き完了(98%完了)。閉合時期については調整中です。



(設置状況)

取り組みの状況

- ◆ 1～3号機の原子炉・格納容器の温度は、この1か月、約20℃～約45℃※¹で推移しています。
また、原子炉建屋からの放射性物質の放出量等については有意な変動がなく※²、総合的に冷温停止状態を維持していると判断しています。
- ※¹ 号機や温度計の位置により多少異なります。
※² 1～4号機原子炉建屋からの放出による被ばく線量への影響は、2015年5月の評価では敷地境界で年間0.0016ミリシーベルト未満です。
なお、自然放射線による被ばく線量は年間約2.1ミリシーベルト（日本平均）です。

1号機建屋カバー解体に向けた状況

5/21に、原子炉建屋3階機器ハッチ開口部に設置したバルーンにずれが確認され、バルーンを覆う雨カバー上にガレキや飛散防止剤の滞留等を確認しました。

バルーンの有無に関わらず十分低い放出量であることから、復旧は行わないものの、風の流入を抑制するための対策を講じることで放出抑制を図ります。

建屋カバー解体工事にあたっては、飛散抑制対策を着実に実施するとともに、安全第一に作業を進めていきます。

3号機使用済燃料プール内ガレキ撤去再開

クレーンに取り付けられたカメラの故障により、3号機使用済燃料プール内の大型ガレキ撤去作業を中断していましたが、クレーンの年次点検に合わせ、故障したカメラの交換を行いました。

6/22より3号機使用済燃料プール内の大型ガレキ撤去作業を再開しました。

燃料交換機本体等の大型ガレキ撤去作業に当たっては、専用の吊り上げ器具を用いて慎重に撤去を進めます。

陸側遮水壁試験凍結の状況

陸側遮水壁について、4/30から18箇所（凍結管58本、山側の約6%）において試験凍結を実施中です。試験凍結において、設備全体の移動状況に問題がないことや地中温度が低下していることを確認しています。

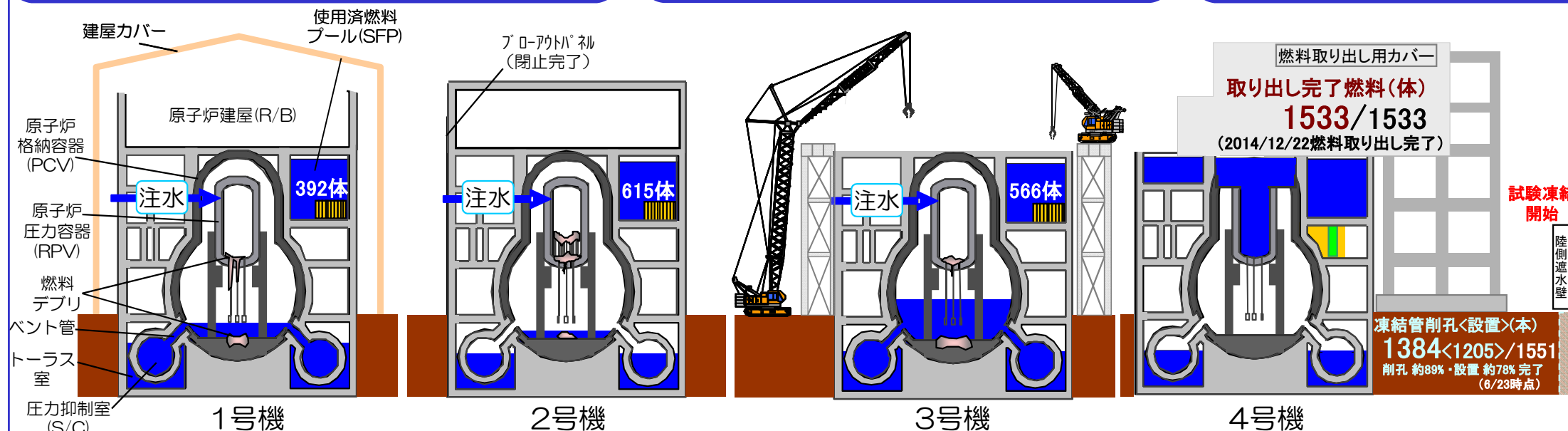
試験凍結箇所のうち1箇所において、周辺の地下水位に継続して変化が見られたことから、6/3より当該箇所への冷媒の供給を休止しています。

中長期ロードマップ改訂

6/12に、廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議を開催し、中長期ロードマップを改訂しました。

また、6/15に、福島評議会にて、今回改訂の中長期ロードマップ等について、ご説明しました。

引き続き、地元の皆様の御要望も踏まえつつ、廃炉・汚染水対策を着実に進めてまいります。



大型休憩所の運用開始

約1,200人利用可能な大型休憩所の運用を5/31に、食堂での食事提供を6/1に開始しました。作業員の皆さまに、休憩に加え、事務作業や作業前の安全確認が実施できるスペースとして活用頂いています。

食堂は、衛生面の向上を図るため改修工事が必要と判断し、6/9以降、食堂運営を一時的に休止し、改修工事を実施後、7月下旬より再開します。休止期間中は、新事務棟食堂の営業時間を拡大し、作業員の皆さまの利用性向上に努めます。

固体廃棄物貯蔵庫掘削工事に着手

ガレキ等を安全に保管する設備として、200リットルドラム缶約11万本相当の保管容量を持つ固体廃棄物貯蔵庫（第9棟）を増設します。

これまで敷地造成などの準備工事を実施しており、6/8より掘削工事を進めています。

覆土式一時保管施設第3槽ガレキ受け入れ開始

廃棄物を適切に保管するため、ガレキを一時的に保管する覆土式一時保管施設第3槽でのガレキの受け入れを6/23より開始しました。

覆土式一時保管施設では表面線量率30mSv/h以下の金属・コンクリートガレキを保管します。



<初回ガレキ受け入れ状況>

タービン建屋への移送ホースからの漏えい

5/29、1,000tノッチタンク群内の貯留水を3号機タービン建屋へ移送中、耐圧ホースから漏えいしていることを確認しました。

漏えい水はK排水路を經由し港湾内に流入しましたが、K排水路にて漏えい水の回収等を行ったこと、港湾口および外洋での放射能濃度に有意な変動がなかったことから、影響は港湾内にとどまっていると考えています。

対策として、当該耐圧ホースをポリエチレン管へ取り換えました。類似箇所の点検および対策を進めています。



<漏えい箇所>

主な取り組み 構内配置図



※モニタリングポスト（MP-1～MP-8）のデータ

敷地境界周辺の空間線量率を測定しているモニタリングポスト（MP）のデータ（10分値）は $0.967\mu\text{Sv/h}$ ～ $3.948\mu\text{Sv/h}$ （2015/5/27～6/23）。

MP-2～MP-8については、空間線量率の変動をより正確に測定することを目的に、2012/2/10～4/18に、環境改善（森林の伐採、表土の除去、遮へい壁の設置）の工事を実施しました。

環境改善工事により、発電所敷地内と比較して、MP周辺の空間線量率だけが低くなっています。

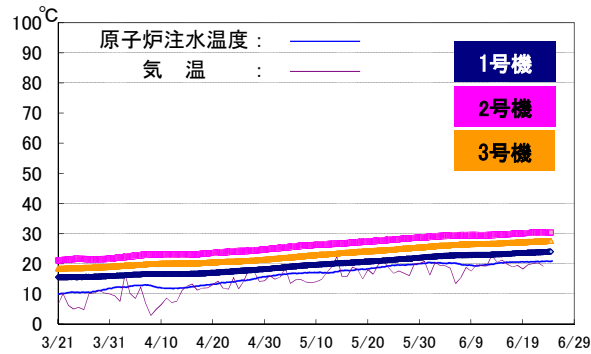
MP-6については、さらなる森林伐採等を実施した結果、遮へい壁外側の空間線量率が大幅に低減したことから、2013/7/10～7/11にかけて遮へい壁を撤去しました。

提供：日本スペースイメージング（株）、(C)DigitalGlobe

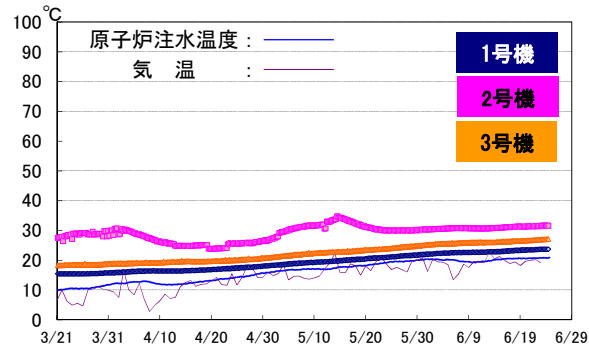
I. 原子炉の状態の確認

1. 原子炉内の温度

注水冷却を継続することにより、原子炉圧力容器底部温度、格納容器気相部温度は、号機や温度計の位置によって異なるものの、至近1ヶ月において、約20～45度で推移。



原子炉圧力容器底部温度（至近3ヶ月）

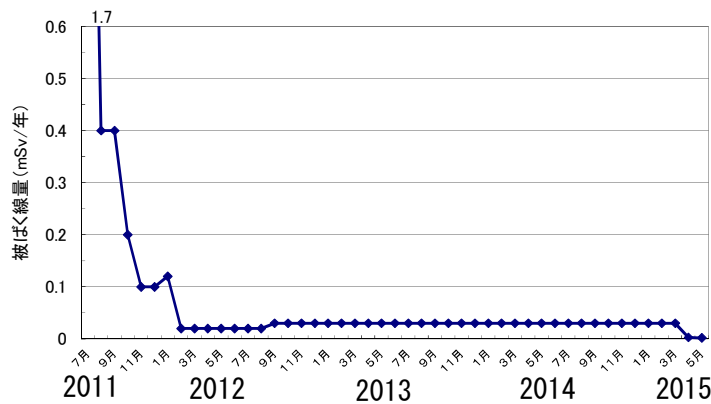


格納容器気相部温度（至近3ヶ月）
※トレンドグラフは複数点計測している温度データの内、一部のデータを例示

2. 原子炉建屋からの放射性物質の放出

2015年5月において、1～4号機原子炉建屋から新たに放出される放射性物質による、敷地境界における空气中放射性物質濃度は、Cs-134 約 4.5×10^{-11} ベクレル/cm³ 及び Cs-137 約 1.2×10^{-10} ベクレル/cm³ と評価。放出された放射性物質による敷地境界上の被ばく線量は0.0016mSv/年未満と評価。

1～4号機原子炉建屋からの放射性物質（セシウム）による敷地境界における年間被ばく線量評価



（参考）

※周辺監視区域外の空気中の濃度限度：

[Cs-134]： 2×10^{-5} ベクレル/cm³、

[Cs-137]： 3×10^{-5} ベクレル/cm³

※1F敷地境界周辺のダスト濃度「実測値」：

[Cs-134]：ND（検出限界値：約 1×10^{-7} ベクレル/cm³）、

[Cs-137]：ND（検出限界値：約 2×10^{-7} ベクレル/cm³）

※モニタリングポスト（MP1～MP8）のデータ

敷地境界周辺の空間線量率を測定しているモニタリングポスト（MP）のデータ（10分値）は $0.967 \mu\text{Sv/h} \sim 3.948 \mu\text{Sv/h}$ （2015/5/27～6/23）

MP2～MP8 空間線量率の変動をより正確に測定することを目的に、環境改善（周辺の樹木伐採、表土の除去、遮へい設置）を実施済み。

（注）線量評価については、施設運営計画と月例報告とで異なる計算式及び係数を使用していたことから、2012年9月に評価方法の統一を図っている。
4号機については、使用済燃料プールからの燃料取り出し作業を踏まえ、2013年11月より評価対象に追加している。
2015年度より連続ダストモニタの値を考慮した評価手法に変更し、公表を翌月としている。

3. その他の指標

格納容器内圧力や、臨界監視のための格納容器放射性物質濃度（Xe-135）等のパラメータについても有意な変動はなく、冷却状態の異常や臨界等の兆候は確認されていない。

以上より、総合的に冷温停止状態を維持しており原子炉が安定状態にあることが確認されている。

II. 分野別の進捗状況

1. 汚染水対策

～地下水流入により増え続ける滞留水について、流入を抑制するための抜本的な対策を図るとともに、水処理施設の除染能力の向上、汚染水管理のための施設を整備～

➤ 地下水バイパスの運用状況

- 2014/4/9 より 12 本ある地下水バイパス揚水井の各ポンプを順次稼働し、地下水の汲み上げを開始。2014/5/21 より内閣府廃炉・汚染水対策現地事務所職員の立ち会いの下、排水を開始。2015/6/24 までに 111,583m³ を排水。汲み上げた地下水は、一時貯留タンクに貯留し、水質が運用目標を満足していることを東京電力及び第三者機関（日本分析センター）で確認した上で排

水。

- 地下水バイパスや高温焼却炉建屋の止水対策等により、これまでのデータから評価した場合、建屋への地下水流入量が約 80m³/日減少していることを確認（図1参照）。
- 観測孔の地下水位が、地下水バイパスの汲み上げ開始前と比較し約 5～20cm 程度低下していることを確認。
- 流量の低下が確認されている揚水井 No. 5, 7, 8, 10, 12 について清掃のため地下水汲み上げを停止（No. 5:5/22～, No. 7:6/10～, No. 8:5/22～6/17, No. 10:4/27～6/9, No. 12:5/25～）。

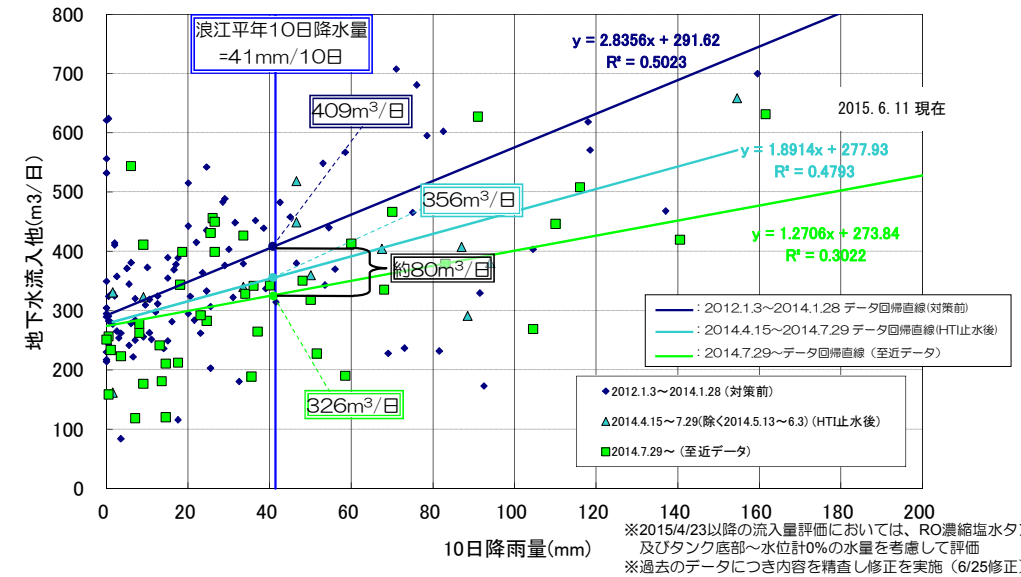


図1：建屋への流入量評価結果

➤ 陸側遮水壁の造成状況

- 1～4号機を取り囲む陸側遮水壁（経済産業省の補助事業）の造成に向け、凍結管設置のための削孔工事を開始（2014/6/2～）。先行して凍結する山側部分について、2015/6/23 時点で 1,249 本（約 99%）削孔完了（凍結管用：1,025 本／1,036 本、測温管用：224 本／228 本）、凍結管 1,025 本／1,036 本（約 99%）建込（設置）完了（図3参照）。今後、必要な手続きを経て、残りの施工を進める。
- 4/30 より、18 箇所（凍結管 58 本、山側の約 6%）において、試験凍結を実施中。試験凍結において、設備全体の稼働状況に問題がないことや地中温度が低下していることを確認。試験凍結箇所 No. 7 近傍の観測井と凍結影響範囲外の複数の観測井との水位変化量の差が4日間連続で基準値を超過したことから、6/3 より試験凍結箇所 No. 7 へのブラインの供給を休止中。

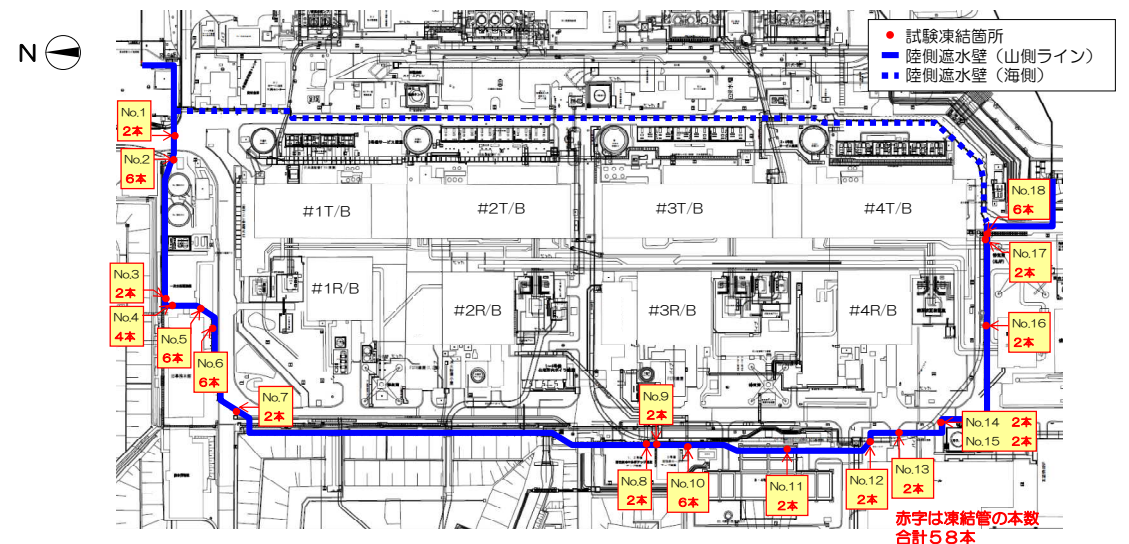


図2：陸側遮水壁の試験凍結箇所

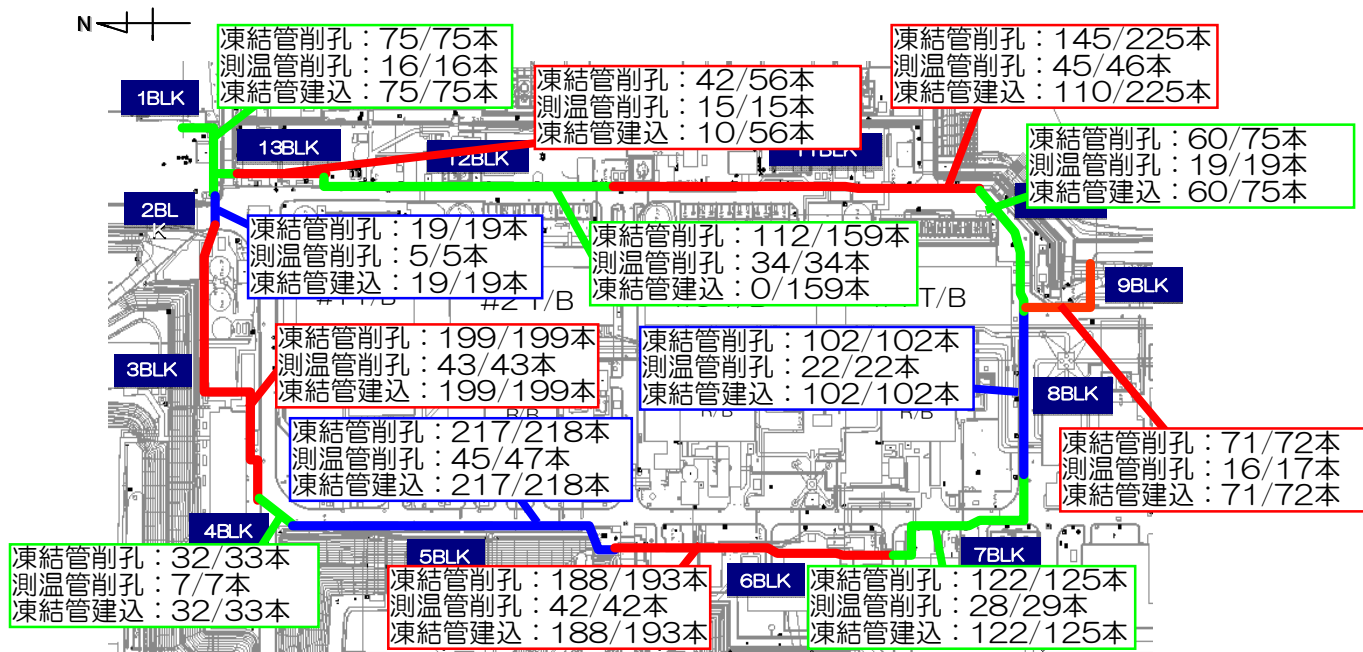


図3：陸側遮水壁削孔工事・凍結管設置工事の状況

➤ 多核種除去設備の運用状況

- 多核種除去設備（既設・増設・高性能）は放射性物質を含む水を用いたホット試験を実施中（既設 A 系：2013/3/30～、既設 B 系：2013/6/13～、既設 C 系：2013/9/27～、増設 A 系：2014/9/17～、増設 B 系：2014/9/27～、増設 C 系：2014/10/9～、高性能：2014/10/18～）。

- これまでに多核種除去設備で約 254,000m³、増設多核種除去設備で約 146,000m³、高性能多核種除去設備で約 64,000m³ を処理（6/18 時点、放射性物質濃度が高い既設 B 系出口水が貯蔵された J1 (D) タンク貯蔵分約 9,500m³ を含む）。
- 既設多核種除去設備 A 系及び C 系は、設備点検及び性能向上のための吸着塔増塔工事を実施中（5/24～）。B 系は点検に伴い発生する排水や R0 濃縮塩水の残水等の処理を行うため適宜運転し、A・C 系の点検終了後に点検を行う。
- Sr 処理水のリスクを低減するため、増設多核種除去設備、高性能多核種除去設備にて処理を実施中（増設：5/27～、高性能：4/15～）。これまでに約 26,000m³ を処理（6/18 時点）。
- 6/11、増設多核種除去設備において、制御ソフトの変更後に循環待機運転が自動停止する事象が発生した。自動停止による汚染水の漏えいや機器の異常は無い。自動停止の原因は、制御装置の電源回路が地絡したことによるものであり、電源回路の健全性を確認したのちに電源を復旧し、6/13 に処理を再開した。なお、地絡原因およびソフト改造による影響について調査を継続中。

➤ HIC(高性能容器) 蓋外周部のたまり水発生の確認状況

- 4/2 の HIC* 蓋外周部でのたまり水発見を受けて、他にたまり水の発生がないかの確認を実施。6/15 に吸着塔一時保管施設（第二施設）の点検が完了し、保管数 684 基中、たまり水の確認された HIC は 30 基。
※HIC(高性能容器)：多核種除去設備等の前処理設備や吸着塔で発生する、沈殿物生成物（スラリー）や使用済吸着材を保管する容器。
- 5/29 より第二施設において、HIC 内の水抜きを実施中。6/24 時点で 32 基の水抜き完了。

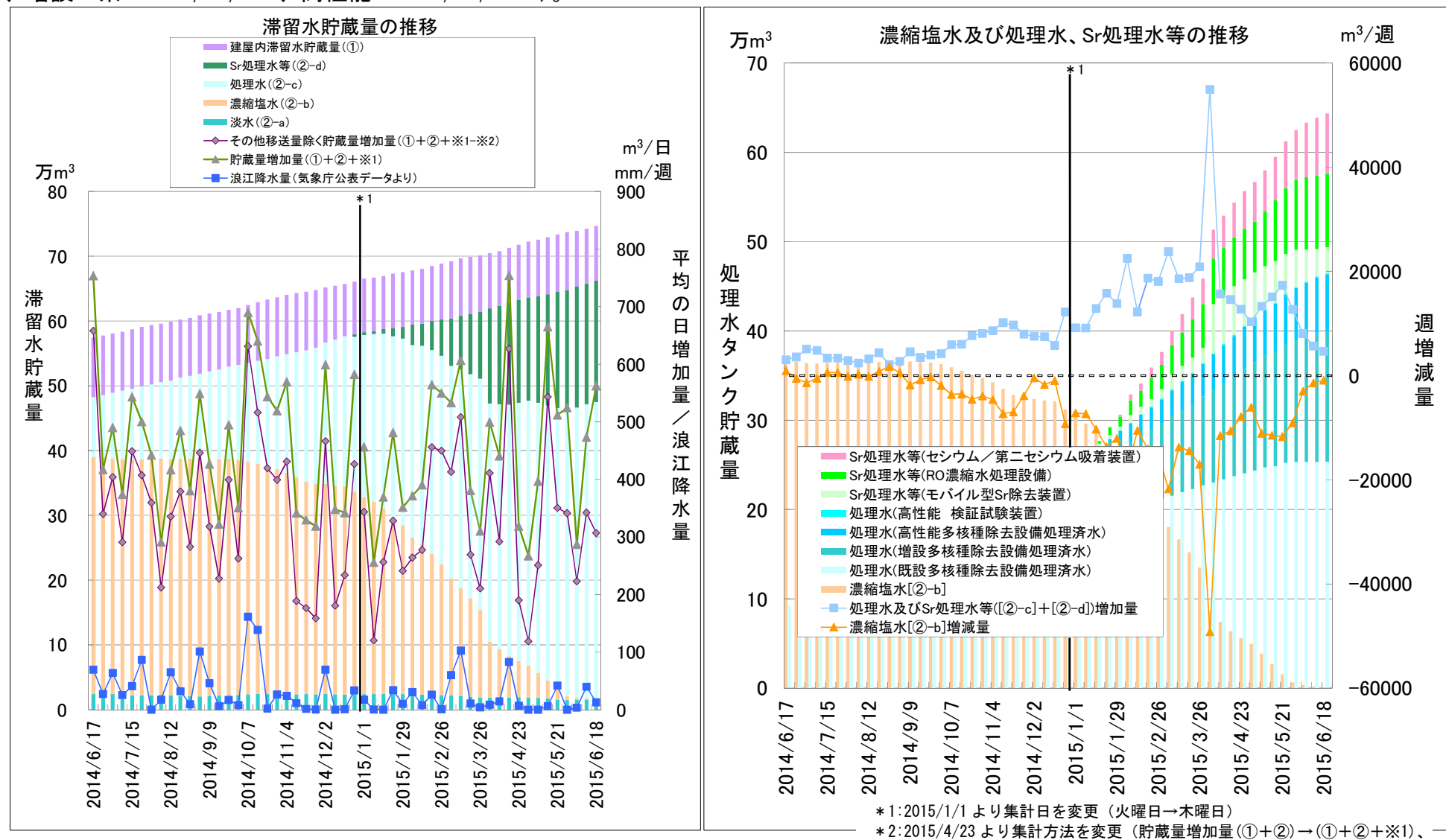


図4：滞留水の貯蔵状況

2015/6/18 現在

- *1: 2015/1/1 より集計日を変更（火曜日→木曜日）
- *2: 2015/4/23 より集計方法を変更（貯蔵量増加量 (①+②) → (①+②+※1)、その他移送量除く貯蔵量増加量 (①+②-※2) → (①+②+※1-※2)）
- *3: 水位計 0%以上の水量
- *4: 過去のデータにつき内容を精査し修正を実施。

- ・点検過程で蓋にベント孔の無いものが発見されたため、ベント孔の数に関する確認記録がない蓋の確認を実施。第二施設の対象 478 基中、孔数に過不足がある蓋を 8 個確認。孔が無いものは交換実施済。孔が不足のものは、孔を所定数まで追加予定。
- ・2014 年 4 月に発生した HIC からの溢水に伴い、汚染拡大防止のためにゴムマットを貼付した HIC について、ゴムマットによりベント孔が機能していないことを確認したため、ベント機能を確保するよう回収を実施（6/18）。
- ・引き続き吸着塔一時保管施設（第三施設）において、点検を継続中。

➤ タンク内にある汚染水のリスク低減に向けて

- ・セシウム吸着装置（KURION）でのストロンチウム除去（1/6～）、第二セシウム吸着装置（SARRY）でのストロンチウム除去（2014/12/26～）を実施中。6/18 時点で約 68,000m³ を処理。

➤ タンクエリアにおける対策

- ・汚染水タンクエリアに降雨し堰内に溜まった雨水のうち、基準を満たさない雨水について、2014/5/21 より雨水処理装置を用い放射性物質を除去し敷地内に散水（2015/6/23 時点で累計 26,250m³）。

➤ 地下貯水槽 No. 1 周辺の汚染土回収完了

- ・地下貯水槽 No. 1 周辺について、2013 年 4 月に発生した R0 濃縮塩水の漏えいにより汚染された土砂の回収が完了（6/2）。なお、地下貯水槽 No. 2 周辺の汚染土は 2013 年 8 月までに回収済。

➤ 1,000t ノッチタンク群から 3 号機タービン建屋への移送ホースからの漏えい

- ・5/29、1,000t ノッチタンク群から 3 号機タービン建屋へタンク内の貯留水を移送していたところ、移送用耐圧ホースから漏えいしていることを確認。漏えい水は排水側溝・K 排水路を經由し、港湾内に流入したと推定。ただし港湾口、および外洋での放射能濃度に有意な変動がないことから、影響は港湾内にとどまっていると考えられる。推定漏えい量は約 7～15m³。
- ・速やかに排水路・排水側溝内の水の回収（5/29～）、排水側溝の土砂回収（5/29）、土嚢設置（5/29）を実施。K 排水路出口の濃度が通常範囲である 200Bq/L 以下で安定していることから、水の回収を終了し、土嚢を撤去（6/3）。
- ・漏えいした耐圧ホースについて、ポリエチレン管への取り換えを実施（6/20 完了）。
- ・発電所内で使用している耐圧ホースについて全線点検を実施（5/30～6/10）。
- ・高濃度汚染水を扱うホースは現状で十分管理し、使用していることを確認。
- ・高濃度汚染水以外を扱うホースは、使用不可能な 2 ラインについては使用予定がないため今後撤去予定、使用可能だが改善点があった 139 ラインについては計画的に改善する。
- ・使用可能なホースでも今後使用しないものは計画的に撤去する。

➤ 2 号機増設 FSTR 他への地下水流入

- ・原子炉建屋等と連通性がないと評価したエリアである 2 号機増設 FSTR※、3 号機 FSTR において、仮設ポンプにより建屋内滞留水の排水を実施。
※ FSTR：廃棄物地下貯蔵建屋
- ・2 号機増設 FSTR の建屋水位低下に伴い、地下水流入箇所を確認。3 号機 FSTR の建屋水位低下に伴い、新たな地下水流入箇所は確認されていないが、排水後の建屋水位上昇を確認。
- ・建屋内滞留水の排水後、目視調査を実施予定。
- ・3 号機 FSTR 地下滞留水の移送作業において、建屋内の廃スラッジ貯蔵タンク（A）の側板の一部に変形を確認（6/18）。タンク内確認の結果、内面にて六角状の変形を確認（6/22）。3 号機 FSTR 内の他のタンクは異常無し。

➤ 集中廃棄物処理建屋バイパスラインの設置

- ・現状、タービン建屋地下滞留水は、一旦集中廃棄物処理建屋（プロセス主建屋及び高温焼却炉建屋）地下に貯留し、各処理装置にて核種の除去を行っているが、高濃度汚染水を集中廃棄物処理建屋地下に貯留するリスクを低減する目的で、タービン建屋地下滞留水を各処理装置へ直

接移送する系統の設置等を行う計画。実施計画の変更認可申請を 6/9 に実施。

➤ 海水配管トレンチの汚染水除去

- ・2 号機海水配管トレンチは、2014/12/18 にトンネル部の充填が完了。立坑 A、D の充填を 2015/2/24 に開始し、4/7 に 1 サイクル目、5/27 に 2 サイクル目の充填が完了。開削ダクトの充填を 6/3 より実施中。立坑 C の充填を 6/1 に開始し 6/22 に充填完了。6 月中を目処に滞留水の除去完了を目指す計画。
- ・3 号機海水配管トレンチは、トンネル部の充填を完了（2/5～4/8）。トンネル部充填確認揚水試験を実施（4/16, 21, 27）。トンネル部の連通がないことを確認。立坑 D の充填を 5/2 より、立坑 A の充填を 5/15 より開始し、6/6 に立坑 A の充填が完了。6/13 より立坑 B、6/17 より立坑 C の充填中。1 号機復水貯蔵タンクへの移送準備が整い次第、早期に滞留水除去を行う計画。
- ・4 号機海水配管トレンチは、トンネル部及び開口部Ⅱ・Ⅲの充填を完了（トンネル部：2/14～3/21、開口部Ⅱ・Ⅲ：4/15～28）。放水路上越部の充填に際しては、周辺工事との作業調整のうえ実施予定。開口部Ⅰについては、建屋滞留水の水位低下と合わせて充填を行う方針。
- ・海水配管トレンチ全体の汚染水除去全体の進捗は約 83%完了（6/23 時点）。

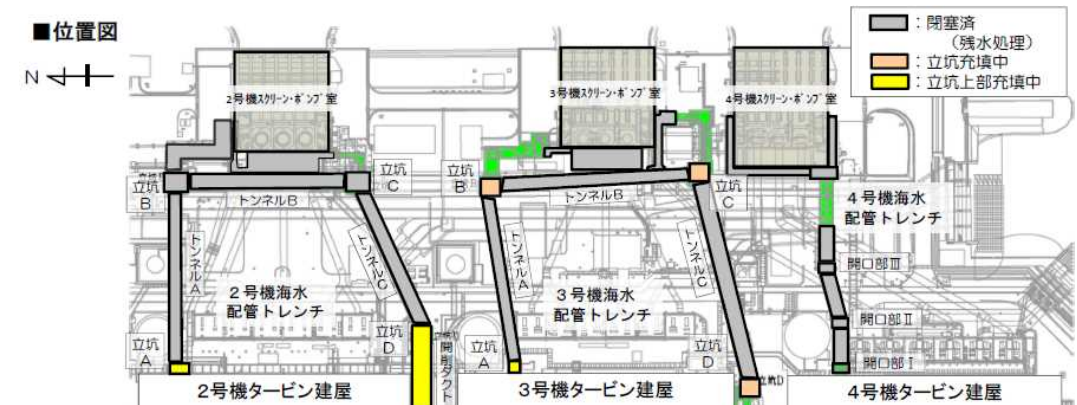


図5：海水配管トレンチ汚染水対策工事の進捗状況

2. 使用済燃料プールからの燃料取り出し

～耐震・安全性に万全を期しながらプール燃料取り出しに向けた作業を着実に推進。4 号機プール燃料取り出しは 2013/11/18 に開始、2014/12/22 に完了～

➤ 1 号機使用済燃料取り出しに向けた主要工事

- ・5/21 に、放射性物質の放出量を抑えるために原子炉建屋 3 階機器ハッチ開口部に設置したバルーンにずれが確認された。状況を確認した結果、バルーンを覆う雨カバー上にガレキや飛散防止剤が滞留していること、バルーン自体には損傷等がないこと等を確認。最新データでの評価で、バルーンを見込まずとも十分低い放出量であることから、復旧は行わないものの、風の流入を抑制するための対策を講じることで放出抑制を図る。
- ・建屋カバー解体工事にあたっては、飛散抑制対策を着実に実施するとともに、安全第一に作業を進めていく。

➤ 2 号機使用済燃料取り出しに向けた主要工事

- ・2 号機原子炉建屋からのプール燃料の取り出しに向け、大型重機等を設置する作業エリアを確保するため、原子炉建屋周辺のヤード整備を実施中。
- ・現在、ダクト等の閉止処置や既存設備の移設等の準備作業を実施しているが、準備が整い次第、2015 年 8 月頃から干涉建屋の解体撤去に本格着手する予定。

➤ 3 号機使用済燃料取り出しに向けた主要工事

- ・5/9 に、ガレキ撤去作業に用いるクローラークレーンの監視カメラ 2 台のズーム機能不動作を確認。2 台の監視カメラのうち、1 台は交換を実施（5/13）。もう 1 台はクローラークレーンの年次点検（6/1～19）の中で修理を実施。

- ・ 6/22 より使用済燃料プール内の大型ガレキ撤去作業を再開。燃料交換機本体については7月後半に撤去予定。

3. 燃料デブリ取り出し

～格納容器へのアクセス向上のための除染・遮へいに加え、格納容器漏えい箇所の調査・補修など燃料デブリ取り出し準備に必要な技術開発・データ取得を推進～

➤ 2号機原子炉格納容器内部調査に向けた準備

- ・ 8月より実施予定の2号機原子炉格納容器ペDESTAL内プラットホーム状況調査の事前準備として、調査装置を導入する格納容器貫通部（X-6 ペネ）の前に設置された遮へいブロックを、遠隔操作にて6/11より撤去開始。
- ・ 遮へいブロックの撤去後、7月にX-6ペネの貫通工事を実施する予定。

4. 固体廃棄物の保管管理、処理・処分、原子炉施設の廃止措置に向けた計画

～廃棄物発生量低減・保管適正化の推進、適切かつ安全な保管と処理・処分にに向けた研究開発～

➤ ガレキ・伐採木の管理状況

- ・ 5月末時点でのコンクリート、金属ガレキの保管総量は約155,100m³（4月末との比較：+3,600m³）（エリア占有率：62%）。伐採木の保管総量は約82,500m³（4月末との比較：+3,900m³）（エリア占有率：60%）。ガレキの主な増加要因は、フェーシング関連工事、1～4号機建屋周辺ガレキ撤去関連工事、タンク設置関連工事、固体廃棄物貯蔵庫9棟設置工事など。伐採木の主な増加要因は、フェーシング関連工事によるもの。

➤ 水処理二次廃棄物の管理状況

- ・ 2015/6/18時点での廃スラッジの保管状況は597m³（占有率：85%）。濃縮廃液の保管状況は9,237m³（占有率：46%）。使用済ベッセル・多核種除去設備の保管容器（HIC）等の保管総量は2,571体（占有率：42%）。

➤ 固体廃棄物貯蔵庫（第9棟）の掘削工事着手

- ・ 200Lドラム缶約11万本相当を保管可能な固体廃棄物貯蔵庫について、掘削に伴う山留工事を6/8より開始。

➤ 覆土式一時保管施設第3槽でのガレキ受け入れ開始

- ・ 表面線量率30mSv/h以下のコンクリートや金属のガレキ類を保管するために設置された覆土式一時保管施設第3槽において、6/23よりガレキの受け入れを開始。

5. 原子炉の冷却

～注水冷却を継続することにより低温での安定状態を維持するとともに状態監視を補完する取組を継続～

➤ 1号機原子炉格納容器水位計・温度計の再設置

- ・ 格納容器内部調査のため、格納容器内部に設置した常設監視計器（温度計・水位計）を取り外した（4/7）。調査終了（4/20）に伴い、常設監視計器を再設置（4/22～23）。設置から1ヶ月程度の温度トレンドより、冷却状態の監視に使用できると判断し、6/4より監視対象計器とした。

➤ 1号機原子炉格納容器ガス管理設備放射線検出器の指示不良

- ・ 原子炉格納容器ガス管理設備B系の機器異常発生により、6/12、13に指示不良を確認したため、検出器、冷却装置の交換・点検を実施し6/17に復旧。なお、B系の欠測期間において、A系は正常に動作しており、プラントデータ監視に支障はない。

➤ 1号機使用済燃料プール水の浄化

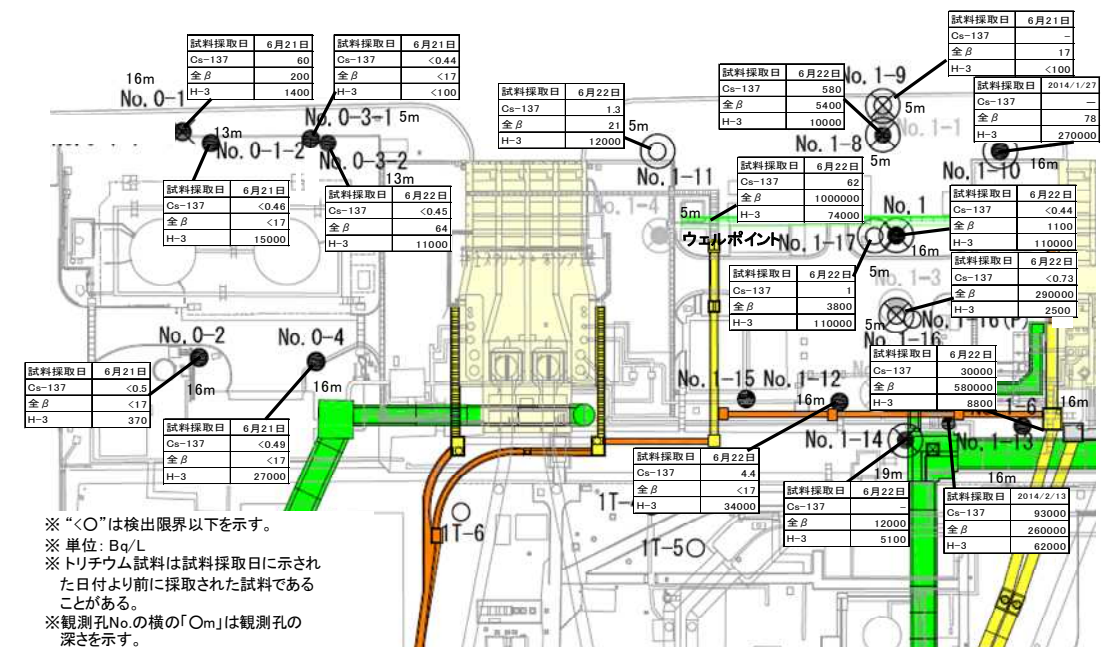
- ・ 1号機使用済燃料プール水について、建屋カバー撤去後の風雨等により塩分除去が必要となった際に備え、放射能除去を実施する（7月下旬開始予定）。

6. 放射線量低減・汚染拡大防止

～敷地外への放射線影響を可能な限り低くするため、敷地境界における実効線量低減や港湾内の水の浄化～

➤ 1～4号機タービン建屋東側における地下水・海水の状況

- ・ 1号機取水口北側護岸付近において、地下水観測孔No.0-4のトリチウム濃度が2014年7月から上昇傾向にあり、現在は25,000Bq/L程度で推移。No.0-3-2より1m³/日の汲み上げを継続。
- ・ 1、2号機取水口間護岸付近において、地下水観測孔No.1、No.1-17のトリチウム濃度は2015年3月以降同レベルとなり12万Bq/L程度で推移。地下水観測孔No.1の全β濃度は2015年2月以降上昇傾向にあり、現在は1,000Bq/L程度、地下水観測孔No.1-17の全β濃度は低下傾向にあり、現在は4,000Bq/L前後で推移。ウェルポイントからの汲み上げ（10m³/日）、地下水観測孔No.1-16の傍に設置した汲上用井戸No.1-16(P)からの汲み上げ（1m³/日）を継続。
- ・ 2、3号機取水口間護岸付近において、ウェルポイントのトリチウム濃度、全β濃度は3月より更に低下し、現在トリチウム濃度500Bq/L程度、全β濃度500Bq/L程度で推移。地盤改良部の地表処理、ウェルポイント改修のため、ウェルポイントの汲み上げ量を50m³/日に増加（2014/10/31～）。地盤改良部の地表処理を1/8に開始し、2/18に終了。ウェルポイント改修作業中（7月中旬完了予定）。
- ・ 3、4号機取水口間護岸付近の地下水放射性物質濃度は、各観測孔とも低いレベルで推移。地盤改良部の地表処理を実施（3/19～3/31）し、地下水のくみ上げを開始（4/1～：20m³/日、4/24～：10m³/日）。地下水観測孔No.3においてトリチウム濃度、全β濃度とも4月より上昇が見られる。ウェルポイント改修作業中（7月中旬完了予定）。
- ・ 1～4号機開渠内の海側遮水壁外側の放射性物質濃度は、5月までと同様に東波除堤北側と同レベルの低い濃度で推移。
- ・ 港湾内海水の放射性物質濃度は5月までと同レベルの低い濃度で推移。
- ・ 港湾口及び港湾外についてはこれまでの変動の範囲で推移。



<1号機取水口北側、1、2号機取水口間>

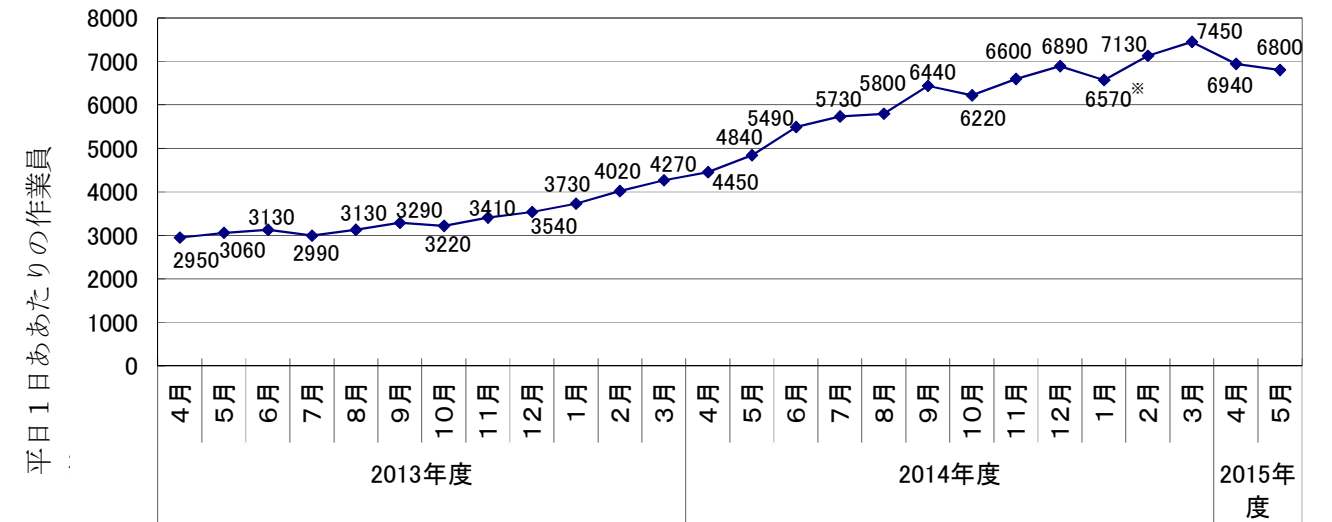
7. 必要作業員数の見通し、労働環境、労働条件の改善に向けた取組

～作業員の被ばく線量管理を確実に実施しながら長期に亘って要員を確保。また、現場のニーズを把握しながら継続的に作業環境や労働条件を改善～

➤ 要員管理

- 1ヶ月間のうち1日でも従事者登録されている人数（協力企業作業員及び東電社員）は、2015年2月～4月の1ヶ月あたりの平均が約15,000人。実際に業務に従事した人数1ヶ月あたりの平均で約11,900人であり、ある程度余裕のある範囲で従事登録者が確保されている。
- 7月の作業に想定される人数（協力企業作業員及び東電社員）は、平日1日あたり6,800人程度※と想定され、現時点で要員の不足が生じていないことを主要元請企業に確認。なお、2013年度以降の各月の平日1日あたりの平均作業員数（実績値）は約3,000～7,500人規模で推移（図9参照）。

※：契約手続き中のため7月の予想には含まれていない作業もある。
- 福島県内の作業員数は横ばいであるが福島県外の作業員数が若干減少したため、5月時点における地元雇用率（協力企業作業員及び東電社員）は若干上昇したがほぼ横ばいで約45%。
- 2013年度、2014年度ともに月平均線量は約1mSvで安定している。（参考：年間被ばく線量目安20mSv/年≒1.7mSv/月）
- 大半の作業員の被ばく線量は線量限度に対し大きく余裕のある状況である。



※1/20までの作業員数より算定（1/21より安全点検実施のため）
図9：2013年度以降各月の平日1日あたりの平均作業員数（実績値）の推移

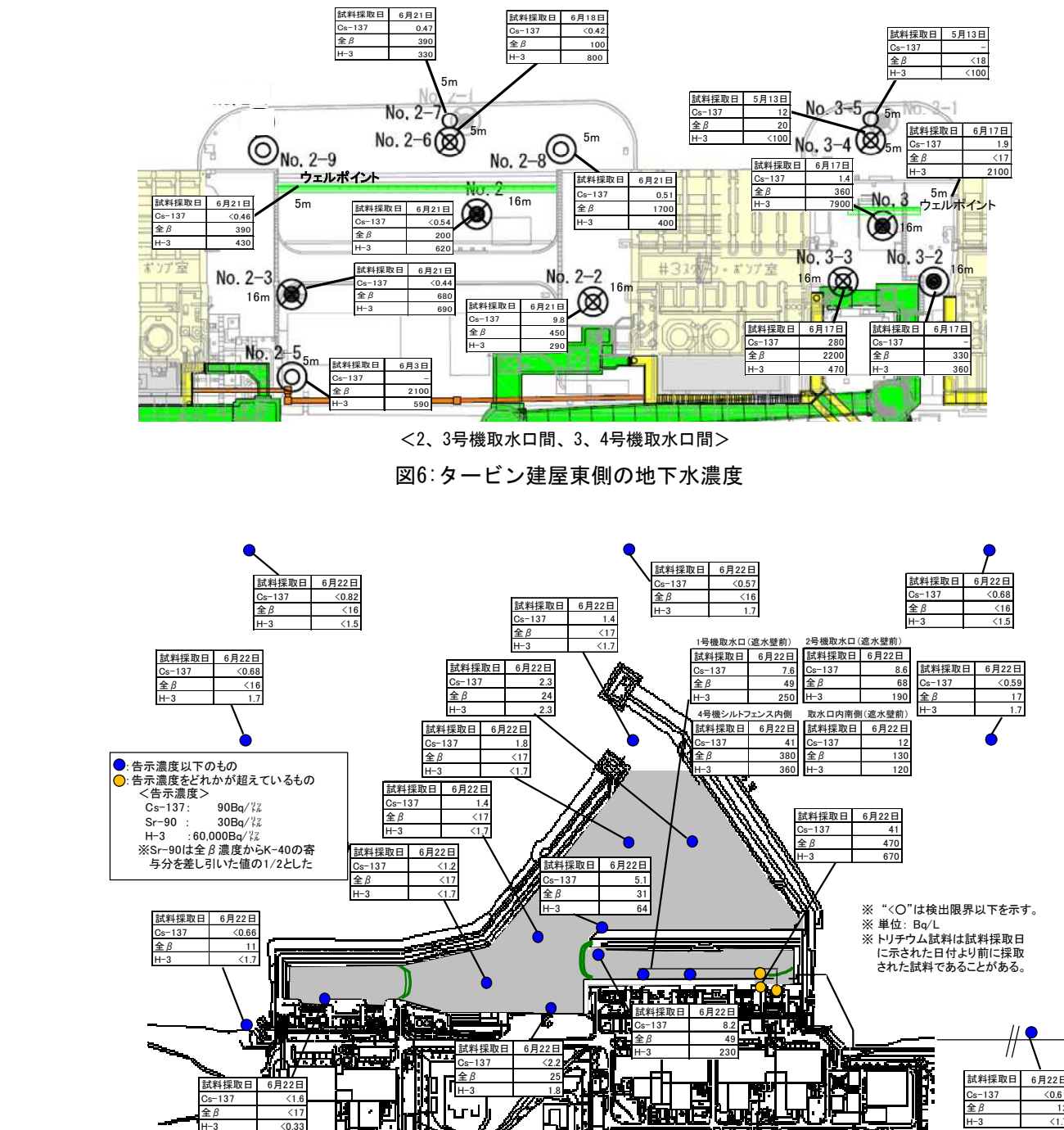


図7：港湾周辺の海水濃度

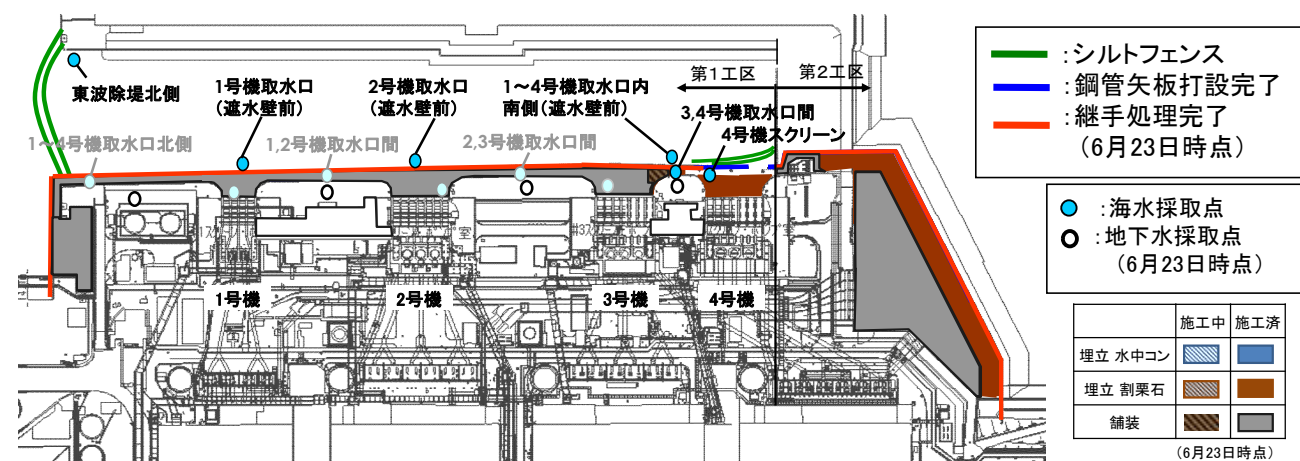


図8：海側遮水壁工事の進捗状況

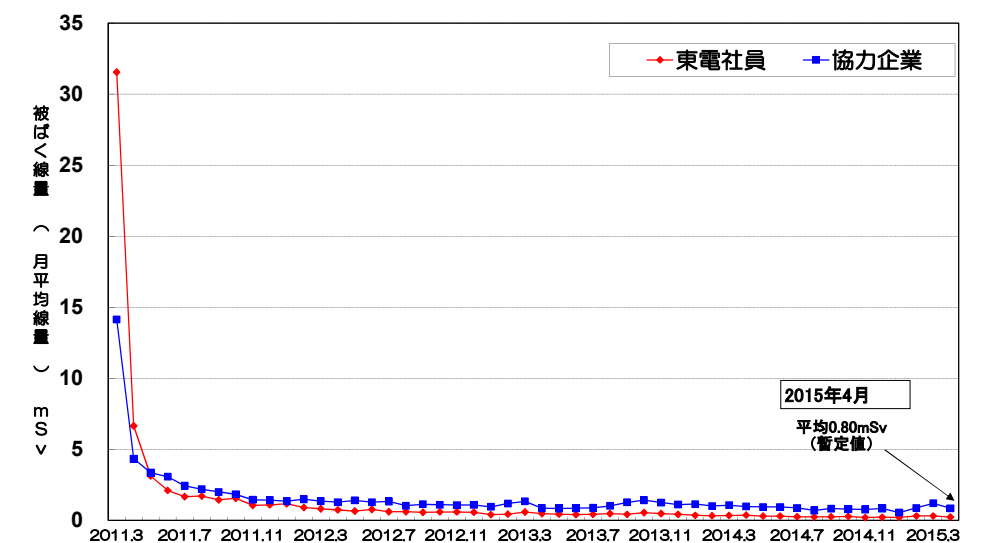


図10：作業員の月別個人被ばく線量の推移（月平均線量）
（2011/3以降の月別被ばく線量）

➤ 熱中症の発生状況

- ・ 2015 年度は 6/24 までに、作業に起因する熱中症が 4 人、熱中症の疑い等を含めると合計 5 人発症。引き続き熱中症予防対策の徹底に努める。(2014 年度は 6 月末時点で、作業に起因する熱中症が 1 人、熱中症の疑い等を含めると合計 5 人発症。)

➤ 大型休憩所の食事スペース改修

- ・ 約 1,200 人収納可能な大型休憩所について、5/31 に運用を開始し、翌 6/1 より食堂での食事提供を開始した。
- ・ 食堂での食事提供については、今後長期にわたって営業を行っていくにあたり、衛生面のより一層の向上を図るため、一部建物の改修工事が必要と判断し、6/9 から 6/23 まで食堂運営を一時休止した。主な改修内容は、天井の改修、手洗い場の増設、コンテナ搬入口の設置工事となるが、工事スケジュールが決定したため、6/24 一旦は営業を再開するものの、工事が開始される 6/29 から 3 週間程度再度休止し、その後、7 月下旬より再開予定。なお、休止期間中は新事務棟食堂の営業時間を拡大し、作業員の皆さまの利用性向上に努める。

8. 5、6 号機の状況

➤ 5、6 号機使用済燃料の保管状況

- ・ 5 号機は、原子炉から燃料の取り出し作業を 4/22 に開始し 6/1 に完了。使用済燃料プール（貯蔵容量 1,590 体）内に使用済燃料 1,374 体、新燃料 168 体を保管。
- ・ 6 号機は、原子炉から燃料の取り出し作業は 2013 年度に実施済。使用済燃料プール（貯蔵容量 1,654 体）内に使用済燃料 1,456 体、新燃料 198 体（うち 180 体は 4 号機使用済燃料プールより移送）、新燃料貯蔵庫（貯蔵容量 230 体）に新燃料 230 体を保管。

➤ 5、6 号機滞留水処理の状況

- ・ 5、6 号機建屋内の滞留水は、6 号機タービン建屋から屋外のタンクに移送後、油分分離、R0 処理を行い、放射能濃度を確認し散水を実施している。

9. その他

➤ 中長期ロードマップの改訂について

- ・ 6/12 に、廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議を開催し、中長期ロードマップを改訂。
- ・ 「30～40 年後の廃止措置終了」など目標の大枠は堅持。その上で、今回改訂のポイントは、以下 5 つ。
 - i) リスク低減の重視（スピードだけでなく、長期的にリスクが確実に下がるよう、優先順位を付けて対応）
 - ii) 目標工程（マイルストーン）の明確化（地元の声に応え、今後数年間の目標を具体化）
 - iii) 徹底した情報公開を通じた地元の信頼関係の強化等（コミュニケーションの更なる充実）
 - iv) 作業員の被ばく線量の更なる低減・労働安全衛生管理体制の強化
 - v) 原子力損害賠償・廃炉等支援機構の強化（研究開発の一元的管理・国内外の叡智結集）
- ・ 本中長期ロードマップを踏まえ、引き続き、廃炉・汚染水対策を着実に進めていく。

➤ 福島評議会の開催について

- ・ 6/15 に、第 8 回福島評議会（福島市）にて、6/12 に廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議で改訂した中長期ロードマップ等について、御説明を実施。
- ・ 会議の場では、今回の中長期ロードマップについて、迅速性重視から安全性の確保に重きを置いた点に評価をいただいた他、廃炉・汚染水対策に関する適切な情報発信等について御要望をいただいた。
- ・ 引き続き、地元の皆様とのコミュニケーションを密に図り、その御要望も踏まえつつ、廃炉・汚染水対策を着実に進めていく。